

令和6年度 世田谷区立等々力小学校 校内研究 研究構想図

<本校教育目標>

○よく考え実行する子ども（確かな学力） ○なかよく助け合う子ども（豊かな心） ○健康で明るい子ども（健やかな体）

研究主題

**運動に主体的に取り組む児童の育成
—自己の高まりを実感できる指導の工夫—**

研究仮説

体育科の学習において、自己の高まりを実感する手立てを講じれば、運動を楽しみ、主体的に運動に親しむことができるようになるだろう。

研究の視点と手立て

自己の高まりを実感できるようになる手立て

【手立て】

- ・振り返りの充実
- ・学習カードの工夫

・学習を振り返り、自己の高まりを実感したり、新しい課題を立てたり、選択したりする。

振り返る

知る
捉える

・自分の現状を認識して、課題を立てる。

【手立て】

- ・児童一人一人に応じた学習課題の設定
- ・適切な資料の提示

協働する

選ぶ
取り組む

・課題に対して、適切な場を選んだり、決めたアプローチ方法を基に取り組んだりする。

【手立て】

- ・場の設定の工夫
- ・児童の意欲を高める声かけの工夫

【手立て】

- ・グループ編成の工夫
- ・効果的な ICT の活用
- ・他者との相互評価・相互承認の充実

・他者と協働しながら、課題の解決を目指す。

等々力型探究的学びのサイクル（体育科）

体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

<児童の実態>

- 概ね体育の授業に前向きに取り組む、楽しむことができる。
- 作戦タイムなどで友達と協力的に取り組むことができる。
- フェアプレーで活動に取り組むことができる。
- 運動に対して苦手意識をもっている児童がいる。
- 技能の向上のために自ら計画をたて活動する力が不十分である。
- 勝敗を受け入れたりすることが難しいときがある。

<教師の実態や願い>

- ・十分な運動量の確保した体育科の授業を行いたい。
- ・めあて、振り返りを書くタイミングとタイムマネジメントの方法を知りたい。
- ・子どもの意欲が高まる効果的な声かけの方法を学びたい。
- ・体の動かし方を感覚的に捉えることが苦手な子など支援が必要な児童に対する適切な手立てを知りたい。